

|            |
|------------|
| 専 門 教 養    |
| 令和 2 年 7 月 |
| 60 分       |

|             |
|-------------|
| 受 験 教 科 等   |
| 高 等 学 校 商 業 |

## 注 意

- 1 指示があるまで、問題冊子を開いてはいけません。
- 2 全て係員の指示に従って、静粛に受験してください。
- 3 机上には、受験票、筆記用具、時計以外のものを出してはいけません。
- 4 他の受験者の迷惑になるような行為、スマートフォン等の使用及び不正行為をしてはいけません。
- 5 解答時間は60分です。途中退出はできません。
- 6 問題冊子のページ数は、17ページです。はじめにページ数を確認してください。
- 7 解答用紙に、**必要事項の記入やマークがない場合や誤っている場合には、解答は全て無効**となります。解答用紙の【1】の欄には、**受験番号を記入し、受験番号に対応する数字をマーク**してください。【2】の欄には、**氏名を記入**してください。ただし、【3】の選択問題を表す欄のマークは不要です。
- 8 問題冊子の余白等は、適宜使用しても構いませんが、どのページも切り離してはいけません。
- 9 問題文中の「学習指導要領」は、特に指示がある場合を除いて、平成29年、平成30年又は平成31年告示の「学習指導要領」を表しています。
- 10 問題の内容についての質問には一切応じません。

## 解答上の注意

- 1 解答は、問題文や解答用紙の注意事項に従って、解答欄にマークしてください。問題には、選択肢から選び解答する場合や、数字又は符号（-）を入れて問題文を完成させて解答する場合などがあり、解答方法が複数ある場合とどれか一つの場合とがあります。
- 2 「解答番号は 

|   |
|---|
| 1 |
|---|

。」と表示のある問に対して、3と解答する場合には、次の（例1）のように解答番号 

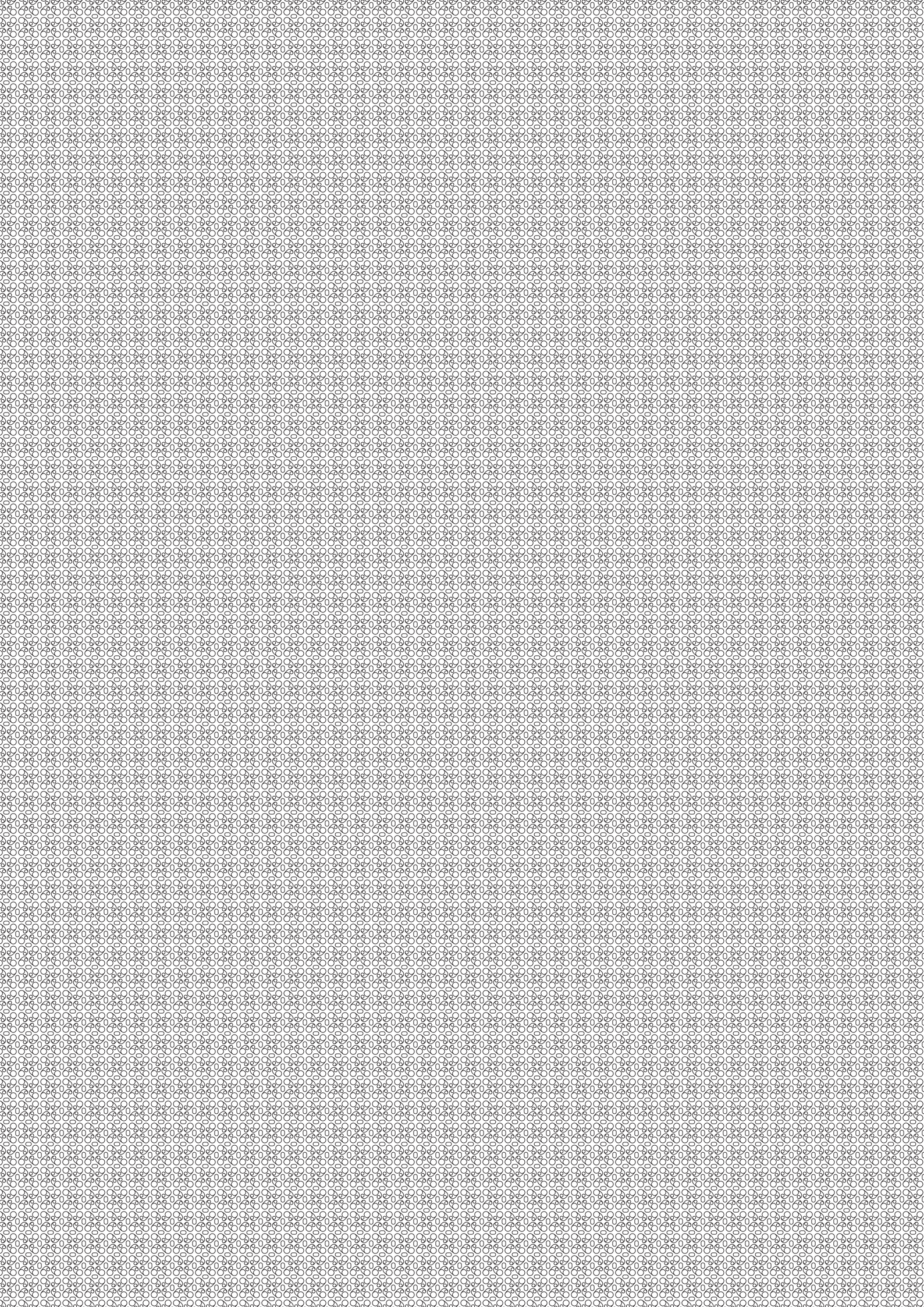
|   |
|---|
| 1 |
|---|

 の解答欄の③にマークしてください。

（例1）

| 解答番号 | 解答欄                   |
|------|-----------------------|
| 1    | ① ② ● ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⊖ |

解答上の注意の続きを、問題冊子の裏表紙に記載してあります。問題冊子を裏返して必ず読んでください。



**1** 学習指導要領に関する次の各問に答えよ。

[問 1] 高等学校学習指導要領商業の「各科目」に関する記述として適切なものは、次の**1**～**4**のうちどれか。解答番号は **1**。

- 1 「グローバル経済」の「目標」には、「商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスにおけるマネジメントに必要な資質・能力」を育成することを目指すことと示されている。
- 2 「財務会計Ⅱ」の「目標」には、「商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、経営管理に有用な会計情報の提供と活用に必要な資質・能力」を育成することを目指すことと示されている。
- 3 「マーケティング」の「目標」には、「商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、マーケティングに必要な資質・能力」を育成することを目指すことと示されている。
- 4 「ネットワーク管理」の「目標」には、「商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスにおけるインターネットの活用に必要な資質・能力」を育成することを目指すことと示されている。

[問 2] 高等学校学習指導要領商業の「各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱い」に示されているものとして適切なものは、次の**1**～**4**のうちどれか。解答番号は **2**。

- 1 「単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の基礎的・基本的な知識と技術の習得を図るようにすること。」とされている。
- 2 「商業に関する各学科においては、「ビジネス基礎」及び「簿記」を原則として全ての生徒に履修させること。」とされている。
- 3 「「管理会計」については、「原価計算」を履修した後に履修させることを原則とすること。」とされている。
- 4 「地域や産業界等との連携・交流を通じた実践的な学習活動や就業体験活動を積極的に取り入れるとともに、社会人講師を積極的に活用するなどの工夫に努めること。」とされている。

**2** 「ビジネス基礎」に関する次の各問に答えよ。

[問 1] 次の記述**ア**～**オ**のうち、正しいものを選んだ組合せとして適切なものは、下の**1**～**4**のうちどれか。解答番号は  。

- ア** トレードオフとは、選択肢が二つ存在する状況で、どちらか一方を選べば、他方をあきらめなければいけないという状態や関係のこと。
- イ** コーポレートチェーンとは、独立した小売業者が共同して組織化し、チェーンオペレーションを展開すること。
- ウ** 特定線引小切手とは、支払銀行が、他の銀行か自行の取引先であれば支払いをするが、一般の持参人には支払わない小切手のこと。
- エ** 委託売買とは、新たに株式や社債などが発行されるとき、発行会社の委託を受けて行う募集売り出し業務のこと。
- オ** 合資会社とは、会社の債務に対し無制限に責任を負う「無限責任社員」と会社の債務に対し出資額までの責任を負う「有限責任社員」とで構成される会社形態のこと。

- 1** ア・イ  
**2** ア・オ  
**3** イ・エ  
**4** ウ・エ

[問 2] 次の文章は、ある売買取引に関するものである。この売買取引における利益額と利益率との組合せとして適切なものは、下の**1**～**4**のうちどれか。ただし、利益率は、利益額の仕入原価に対する割合である。解答番号は  。

A商店が販売している商品を、1ダースにつき¥1,500で40ダース仕入れ、仕入諸掛¥10,000を支払った。この商品に仕入原価の30%の利益を見込んで定価を付け、販売することにした。しかし、2ヶ月経っても、10ダースしか売れなかったため、売れ残りを防止するために、残りの商品を定価の2割引で販売し、完売した。

- 1** 利益額 ¥ 7,350      利益率 9.5%  
**2** 利益額 ¥ 7,350      利益率 10.5%  
**3** 利益額 ¥17,350      利益率 9.5%  
**4** 利益額 ¥17,350      利益率 10.5%

**3** 「マーケティング」に関する次の問に答えよ。

[問] 次の広告に関する用語**ア**～**ウ**と、その説明**A**～**C**との組合せとして最も適切なものは、下の**1**～**6**のうちではどれか。解答番号は **5**。

- ア** コンテンツ連動型広告
- イ** アフィリエイト
- ウ** リスティング広告

- A** 検索連動型広告とも呼ばれ、検索のキーワードに応じて、それに関係する広告を、検索結果の画面の一部に表示する手法である。
- B** 企業等から自動的に配信される広告がWebサイトに掲載され、それがクリックされた回数に応じてサイトの運営者に広告料が支払われる手法である。
- C** 広告主のサイトにリンクした画像やテキストを掲載し、閲覧者がそれを經由して広告主のサイトで会員登録や商品購入をすると、媒体の運営者に報酬が入る手法である。

- |          |                     |                     |                     |
|----------|---------------------|---------------------|---------------------|
| <b>1</b> | <b>ア</b> － <b>A</b> | <b>イ</b> － <b>B</b> | <b>ウ</b> － <b>C</b> |
| <b>2</b> | <b>ア</b> － <b>A</b> | <b>イ</b> － <b>C</b> | <b>ウ</b> － <b>B</b> |
| <b>3</b> | <b>ア</b> － <b>B</b> | <b>イ</b> － <b>A</b> | <b>ウ</b> － <b>C</b> |
| <b>4</b> | <b>ア</b> － <b>B</b> | <b>イ</b> － <b>C</b> | <b>ウ</b> － <b>A</b> |
| <b>5</b> | <b>ア</b> － <b>C</b> | <b>イ</b> － <b>A</b> | <b>ウ</b> － <b>B</b> |
| <b>6</b> | <b>ア</b> － <b>C</b> | <b>イ</b> － <b>B</b> | <b>ウ</b> － <b>A</b> |

4

「経済活動と法」に関する次の各問に答えよ。

[問 1] 次の文章を読んで、下の(1)、(2)の各問に答えよ。

50年前に株式会社を創業したA氏は、会社をさらに発展させるために、経営の合理化とコーポレート・ガバナンス体制の一層の強化が必要であると考えた。

これを実現させるためには、以下のような特徴のある、指名委員会等設置会社への移行が不可欠であると判断し、取締役会に諮ることにした。

- 取締役会の役割は、会社経営の基本方針など基本事項の決定と、委員会の人選と執行役の選任等の経営に関する監督機能を中心とする。
- 業務執行は、取締役会で選任された執行役が担当する。
- 設置が義務づけられている①三つの委員会は、各委員会3名以上の取締役で構成し、委員の過半数は、執行役を兼任していない社外取締役とする。

取締役会で、長い期間をかけ、様々な観点から議論が行われた結果、合意を得ることができた。しかし、②定款の変更が必要なため、株主総会を開催し、そこでの決議を経る必要があった。

令和元年6月○日○曜日、午前10時より、同社の株主総会が開催され、この議案は決議された。

(1) 下線部①に該当する委員会の組合せとして適切なものは、次の1～4のうちのどれか。解答番号は  。

- 1 第三者委員会・組織委員会・指名委員会
- 2 第三者委員会・総務委員会・報酬委員会
- 3 指名委員会・監査委員会・報酬委員会
- 4 指名委員会・総務委員会・監査委員会

(2) 下線部②で行う決議の名称として適切なものは、次の1～4のうちのどれか。解答番号は  。

- 1 特別決議
- 2 普通決議
- 3 取締役会の決議
- 4 特殊の決議

[問 2] 次の表は、民法が規定する13種類ある典型契約のうち、売買、交換、使用貸借、賃貸借、雇用のそれぞれの契約について、契約の性質をまとめたものである。表中の**ア**～**ウ**に当てはまるものの組合せとして適切なものは、下の**1**～**6**のうちのどれか。解答番号は

**8**。

| 典型契約 | 諾成契約・要物契約 | 双務契約・片務契約 | 有償契約・無償契約 |
|------|-----------|-----------|-----------|
| 売買   | 諾成契約      | 双務契約      | <b>ウ</b>  |
| 交換   | <b>ア</b>  | 双務契約      | 有償契約      |
| 使用貸借 | 要物契約      | 片務契約      | 無償契約      |
| 賃貸借  | 諾成契約      | <b>イ</b>  | 有償契約      |
| 雇用   | 諾成契約      | 双務契約      | 有償契約      |

- |   |                |                |                |
|---|----------------|----------------|----------------|
| 1 | <b>ア</b> －諾成契約 | <b>イ</b> －片務契約 | <b>ウ</b> －無償契約 |
| 2 | <b>ア</b> －諾成契約 | <b>イ</b> －双務契約 | <b>ウ</b> －有償契約 |
| 3 | <b>ア</b> －諾成契約 | <b>イ</b> －双務契約 | <b>ウ</b> －無償契約 |
| 4 | <b>ア</b> －要物契約 | <b>イ</b> －片務契約 | <b>ウ</b> －無償契約 |
| 5 | <b>ア</b> －要物契約 | <b>イ</b> －片務契約 | <b>ウ</b> －有償契約 |
| 6 | <b>ア</b> －要物契約 | <b>イ</b> －双務契約 | <b>ウ</b> －有償契約 |

**5** 会計分野に関する次の各問に答えよ。

[問 1] 取引とその仕訳に関する記述として適切なものは、次の 1 ~ 5 のうちのどれか。解答番号は **9**。

1 A商店は、B商店から商品 ¥500,000 を仕入れ、代金の支払いのために、B商店振り出し、A商店あての為替手形 ¥500,000 を引き受けた。

借方 仕 入 ¥ 500,000 貸方 売 掛 金 ¥ 500,000

2 C商店は、D商店に商品 ¥440,000 (消費税 ¥40,000 を含む) を売り渡し、代金はC商店が振り出した小切手を受け取った。

借方 現 金 ¥ 440,000 貸方 売 上 ¥ 400,000  
仮受消費税 ¥ 40,000

3 売買目的で額面 ¥6,000,000 の社債を @ ¥98.20 で買い入れ、代金は買入手数料 ¥27,000 及び端数利息 ¥45,000 とともに小切手を振り出して支払った。

借方 売買目的有価証券 ¥5,892,000 貸方 当 座 預 金 ¥5,937,000  
有価証券利息 ¥ 45,000

4 E商店は、F商店からかねて注文のあった商品 ¥700,000 を発送し、代金のうち ¥500,000 については、取引銀行で荷為替を取り組み、割引料を差し引かれた手取金 ¥485,000 を当座預金とした。なお、残高は掛けとした。

借方 当 座 預 金 ¥ 485,000 貸方 仕 入 ¥ 700,000  
手形売却損 ¥ 15,000  
売 掛 金 ¥ 200,000

5 決算にあたり、当期の法人税、住民税及び事業税の合計額 ¥5,000,000 を計上した。なお、前年度の法人税、住民税及び事業税の合計額 ¥4,600,000 の半額を中間申告のさいに納付している。

借方 法 人 税 等 ¥5,000,000 貸方 仮払法人税等 ¥2,300,000  
未払法人税等 ¥2,700,000



[問 2] 次のG商店の本店及び支店の貸借対照表と未達事項の資料から、「支店勘定残高と本店勘定残高の一致額」と「本支店合併後の当期純利益」との組合せとして適切なものは、下の1～4のうちのどれか。ただし、決算年1回 12月31日である。解答番号は 10。

資 料

a 本店貸借対照表及び支店貸借対照表

本 店 貸 借 対 照 表

令和〇年12月31日

(単位：円)

| 資 産   | 金 額        | 負債・純資産    | 金 額        |
|-------|------------|-----------|------------|
| 現 金   | 800,000    | 買 掛 金     | 1,808,000  |
| 売 掛 金 | 3,800,000  | 借 入 金     | 2,000,000  |
| 商 品   | 3,000,000  | 貸 倒 引 当 金 | 160,000    |
| 建 物   | 4,000,000  | 建物減価償却累計額 | 540,000    |
| 備 品   | 1,600,000  | 備品減価償却累計額 | 432,000    |
| 支 店   | 3,200,000  | 資 本 金     | 10,000,000 |
|       |            | 当 期 純 利 益 | 1,460,000  |
|       | 16,400,000 |           | 16,400,000 |

支 店 貸 借 対 照 表

令和〇年12月31日

(単位：円)

| 資 産   | 金 額       | 負債・純資産    | 金 額       |
|-------|-----------|-----------|-----------|
| 現 金   | 460,000   | 買 掛 金     | 1,080,000 |
| 売 掛 金 | 2,200,000 | 貸 倒 引 当 金 | 110,000   |
| 商 品   | 1,140,000 | 備品減価償却累計額 | 270,000   |
| 備 品   | 1,000,000 | 本 店       | 2,960,000 |
|       |           | 当 期 純 利 益 | 380,000   |
|       | 4,800,000 |           | 4,800,000 |

b 未達事項

- ① 支店から本店に送った現金¥50,000が、本店に未達である。
- ② 本店から支店に発送した商品¥80,000（原価）が、支店に未達である。
- ③ 支店で本店の買掛金¥100,000を支払ったが、この通知が本店に未達である。
- ④ 本店で支店の広告料¥40,000を立て替え払いしたが、この通知が支店に未達である。
- ⑤ 本店で支店の手数料¥30,000を受け取ったが、支店に未達である。

|          | 支店勘定残高と本店勘定残高の一致額 | 本支店合併後の当期純利益 |
|----------|-------------------|--------------|
| <b>1</b> | ¥3,050,000        | ¥1,830,000   |
| <b>2</b> | ¥3,060,000        | ¥1,830,000   |
| <b>3</b> | ¥3,050,000        | ¥1,840,000   |
| <b>4</b> | ¥3,080,000        | ¥1,850,000   |

6

「財務会計Ⅰ」に関する次の各問に答えよ。

[問 1] 次のA社の3月31日の銀行勘定調整表に関する資料から、3月末の当座預金出納帳の残高と銀行の残高証明書の残高を調整した後に一致する金額として適切なものは、下の1～4のうちのどれか。ただし、当座預金出納帳の残高と銀行の残高証明書の残高の双方を調整する方法による。なお、3月31日現在における当座預金出納帳の残高は¥1,480,000であるが、銀行の残高証明書の残高は¥1,832,000であった。解答番号は 11。

資 料

- a かねて取り立てを依頼していたB商店振り出しの約束手形¥200,000が銀行で取り立て済みとなり、当座預金口座に入金されていたが、当社では未記帳であった。
- b C商店に買掛金支払いのため、小切手¥140,000を作成し、記帳していたが、まだ渡していなかった。
- c D商店に仕入代金の支払いのために振り出した小切手¥160,000が銀行で未払いであった。
- d 水道料金¥68,000が当座預金口座から引き落とされていたが、当社では未記帳であった。
- e 3月31日に現金¥80,000を預け入れたが、営業時間外であったため、銀行では翌日付の入金として扱われていた。

- 1 ¥1,480,000
- 2 ¥1,672,000
- 3 ¥1,752,000
- 4 ¥1,832,000

[問 2] 次のE社の7月中の資料から、先入先出法、移動平均法及び総平均法により、商品有高帳に記帳した場合のそれぞれの次月繰越高の金額として適切なものは、下の1～4のうちのどれか。解答番号は 12。

資 料

7月1日 前月繰越 400個 @¥360  
 8日 仕入れ 800個 @¥390  
 17日 売り上げ 900個 @¥600  
 23日 仕入れ 600個 @¥410  
 31日 売り上げ 200個 @¥620

|   | 先入先出法    | 移動平均法    | 総平均法     |
|---|----------|----------|----------|
| 1 | ¥273,000 | ¥280,000 | ¥285,000 |
| 2 | ¥280,000 | ¥285,000 | ¥273,000 |
| 3 | ¥285,000 | ¥273,000 | ¥280,000 |
| 4 | ¥285,000 | ¥280,000 | ¥273,000 |

[問 3] 次のF商事株式会社（決算年1回 3月31日）の商品に関する次の資料から、売上総利益の金額として適切なものは、下の1～4のうちのどれか。解答番号は 13。

資 料

a 元帳勘定残高（一部）

繰越商品 ¥ 600,000 売 上 ¥7,500,000 仕 入 ¥4,200,000

b 決算整理事項（一部）

期末商品棚卸高

帳簿棚卸数量 1,300個 原 価 @¥500

実地棚卸数量 1,250個 正味売却価額 @¥470

ただし、① 棚卸減耗のうち40個は原価性があり、残りは原価性がない。

② 原価性がある棚卸減耗損は売上原価の内訳項目とし、原価性がない棚卸減耗損は営業外費用とする。

③ 正味売却価額の下落による商品評価損は、売上原価の内訳項目とする。

- 1 ¥3,287,500
- 2 ¥3,292,500
- 3 ¥3,407,500
- 4 ¥3,412,500

[問 4] 次のG商事株式会社の第10期と第11期の損益計算書から、G商事株式会社に関する記述として適切なものは、次のページの1～4のうちのどれか。解答番号は 14。

| (第10期)                                  | <u>損 益 計 算 書</u> |                     |
|---|------------------|---------------------|
| G商事株式会社 令和〇1年4月1日から令和〇2年3月31日まで (単位：千円) |                  |                     |
| I 売上高                                   |                  | 22,000              |
| II 売上原価                                 |                  |                     |
| 1. 期首商品棚卸高                              | 1,875            |                     |
| 2. 当期商品仕入高                              | <u>16,200</u>    |                     |
| 合 計                                     | 18,075           |                     |
| 3. 期末商品棚卸高                              | <u>2,115</u>     | 15,960              |
| 売上総利益                                   |                  | 6,040               |
| III 販売費及び一般管理費                          |                  | <u>3,260</u>        |
| 営業利益                                    |                  | 2,780               |
| IV 営業外収益                                |                  | 130                 |
| V 営業外費用                                 |                  | <u>435</u>          |
| 経常利益                                    |                  | 2,475               |
| VI 特別利益                                 |                  | 120                 |
| VII 特別損失                                |                  | <u>160</u>          |
| 税引前当期純利益                                |                  | 2,435               |
| 法人税・住民税及び事業税                            |                  | <u>1,050</u>        |
| 当期純利益                                   |                  | <u><u>1,385</u></u> |

| (第11期)                                  | <u>損 益 計 算 書</u> |                     |
|---|------------------|---------------------|
| G商事株式会社 令和〇2年4月1日から令和〇3年3月31日まで (単位：千円) |                  |                     |
| I 売上高                                   |                  | 28,600              |
| II 売上原価                                 |                  |                     |
| 1. 期首商品棚卸高                              | 2,060            |                     |
| 2. 当期商品仕入高                              | <u>21,230</u>    |                     |
| 合 計                                     | 23,290           |                     |
| 3. 期末商品棚卸高                              | <u>1,840</u>     | 21,450              |
| 売上総利益                                   |                  | 7,150               |
| III 販売費及び一般管理費                          |                  | <u>3,245</u>        |
| 営業利益                                    |                  | 3,905               |
| IV 営業外収益                                |                  | 143                 |
| V 営業外費用                                 |                  | <u>433</u>          |
| 経常利益                                    |                  | 3,615               |
| VI 特別利益                                 |                  | 140                 |
| VII 特別損失                                |                  | <u>1,975</u>        |
| 税引前当期純利益                                |                  | 1,780               |
| 法人税・住民税及び事業税                            |                  | <u>765</u>          |
| 当期純利益                                   |                  | <u><u>1,015</u></u> |

- 1 第11期は第10期よりも経常利益が大きいのに対して、税引前当期純利益が小さいのは、特別損失が大幅に増えたためである。
- 2 第10期の貸借対照表に記載される商品の金額は¥2,115,000で、第11期の貸借対照表に記載される商品の金額は¥1,840,000である。
- 3 商品回転率は、第10期よりも、第11期の方が下がっているため、第11期の方が商品の在庫期間が長く販売効率が悪いと判断できる。
- 4 第11期の売上高は、第10期に比べて、30%伸びており、同じ割合で営業利益も伸びている。

**7** 「原価計算」に関する次の問に答えよ。

[問] 次の標準原価計算を採用しているA製作所の当月における資料から、予算差異、能率差異、操業度差異の金額として適切なものは、下の1～4のうちのどれか。ただし、直接材料は、製造着手のときに全て投入されるものとする。解答番号は **15**。

資 料

a 標準原価カード

| A製品   | 標準原価カード (一部) |        |        |
|-------|--------------|--------|--------|
|       | 標準直接作業時間     | 標準配賦率  | 金 額    |
| 製造間接費 | 2 時間         | ¥3,000 | ¥6,000 |

b 当月生産データ

|         |                        |
|---------|------------------------|
| 月初仕掛品   | 250個 (加工進捗度50%)        |
| 当 月 投 入 | <u>950個</u>            |
| 合 計     | 1,200個                 |
| 月末仕掛品   | <u>300個 (加工進捗度40%)</u> |
| 完 成 品   | <u><u>900個</u></u>     |

c 製造間接費実際発生額 ¥5,748,000

d 実際直接作業時間 1,870時間

e 製造間接費予算 (公式法変動予算)

|                |            |
|----------------|------------|
| 基準操業度 (直接作業時間) | 2,000時間    |
| 製造間接費予算額       | ¥6,000,000 |
| 変動費率           | ¥1,200     |
| 固定費予算額         | ¥3,600,000 |

|          | 予算差異         | 能率差異          | 操業度差異         |
|----------|--------------|---------------|---------------|
| <b>1</b> | ¥96,000 (不利) | ¥240,000 (有利) | ¥236,000 (不利) |
| <b>2</b> | ¥95,000 (不利) | ¥240,000 (不利) | ¥234,000 (不利) |
| <b>3</b> | ¥96,000 (有利) | ¥144,000 (不利) | ¥325,000 (有利) |
| <b>4</b> | ¥96,000 (有利) | ¥240,000 (不利) | ¥234,000 (不利) |

注：(有利) とは有利差異、(不利) とは不利差異をそれぞれ意味する。

8

「情報処理」に関する次の各問に答えよ。

[問 1] 次の表は、表計算ソフトウェアで作成された、あるインターチェンジ間の料金を計算するためのものである。C 4 にインターチェンジ入口名と C 5 にインターチェンジ出口名を入力して C 6 に料金を表示するとき、C 6 に入力する式として適切なものは、下の 1 ~ 4 のうちのどれか。解答番号は  。

|    | A | B             | C     | D     | E     | F     | G     | H     |
|----|---|---------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 1  |   |               |       |       |       |       |       |       |
| 2  |   | インターチェンジ間の料金表 |       |       |       |       |       |       |
| 3  |   |               |       |       |       |       |       |       |
| 4  |   | インターチェンジ入口名   | 友部    |       |       |       |       |       |
| 5  |   | インターチェンジ出口名   | 伊勢崎   |       |       |       |       |       |
| 6  |   | 料金            | 2,180 |       |       |       |       |       |
| 7  |   |               |       |       |       |       |       |       |
| 8  |   |               | 出口    |       |       |       |       |       |
| 9  |   | 入口            | 友部    | 都賀    | 足利    | 太田桐生  | 伊勢崎   | 前橋南   |
| 10 |   | 友部            |       | 1,160 | 1,740 | 1,940 | 2,180 | 2,350 |
| 11 |   | 都賀            | 1,160 |       | 700   | 900   | 1,200 | 1,420 |
| 12 |   | 足利            | 1,740 | 700   |       | 310   | 620   | 830   |
| 13 |   | 太田桐生          | 1,940 | 900   | 310   |       | 420   | 640   |
| 14 |   | 伊勢崎           | 2,180 | 1,200 | 620   | 420   |       | 340   |
| 15 |   | 前橋南           | 2,350 | 1,420 | 830   | 640   | 340   |       |

1 =INDEX(C10:H15,MATCH(C4,B10:B15,0),MATCH(C5,C9:H9,0))

2 =INDEX(C10:H15,MATCH(C4,B10:B15,1),MATCH(C5,C9:H9,0))

3 =INDEX(C10:H15,MATCH(C4,C10:C15,0),MATCH(C5,C9:H9,1))

4 =INDEX(C10:H15,MATCH(C4,B10:B15,0),MATCH(C5,G10,1))

[問 2] 次の表 1 は、表計算ソフトウェアで作成された、検定試験の受験料に関するデータを示したものである。E 8 にSUM関数を使用したところ、計算結果が正しく表示されなかった。これは、E 3 から E 7 までに文字列で直接入力していたことが原因である。E 3 から E 7 までに数値のみを入力し、表 2 のように表示するために、「セルの書式設定」の「表示形式」における「ユーザー定義」の設定として適切なものは、下の 1 ~ 4 のうちのどれか。解答番号は  。

表 1

|   | A | B         | C      | D  | E      |
|---|---|-----------|--------|----|--------|
| 1 |   | 検定試験受験料一覧 |        |    |        |
| 2 |   | 申込月       | 名称     | 級  | 金額     |
| 3 |   | 4         | 珠算検定   | 3  | 2,000円 |
| 4 |   | 5         | ワープロ検定 | 2  | 2,500円 |
| 5 |   | 7         | 英語検定   | 3  | 1,300円 |
| 6 |   | 9         | 情報処理検定 | 1  | 3,000円 |
| 7 |   | 10        | 簿記検定   | 3  | 2,850円 |
| 8 |   |           |        | 合計 | 0      |

表 2

|   | A | B         | C      | D  | E       |
|---|---|-----------|--------|----|---------|
| 1 |   | 検定試験受験料一覧 |        |    |         |
| 2 |   | 申込月       | 名称     | 級  | 金額      |
| 3 |   | 4         | 珠算検定   | 3  | 2,000円  |
| 4 |   | 5         | ワープロ検定 | 2  | 2,500円  |
| 5 |   | 7         | 英語検定   | 3  | 1,300円  |
| 6 |   | 9         | 情報処理検定 | 1  | 3,000円  |
| 7 |   | 10        | 簿記検定   | 3  | 2,850円  |
| 8 |   |           |        | 合計 | 11,650円 |

- 1 mm"円"
- 2 G/標準,"円"
- 3 #,##0"円"
- 4 ¥#,##0;¥-#,##0,"円"



[問 3] 2進数「110010」と10進数「14」の差を2進数で表したものとして適切なものは、次の1～4のうちのどれか。解答番号は  。

- 1 100000
- 2 100100
- 3 1000000
- 4 1100000


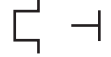



[問 4] 次の校正前と校正後の文章から、使用すべき校正記号ア～クの組合せを表したものとして適切なものは、下の1～8のうちのどれか。なお、校正記号はJ I Sの記号を用いている。解答番号は  。

校正前

さて、このたびには下記のとおり新商品を販売いたします。今回の商品は、機能性を重視したものでございます。ぜひ、ご購入をご検討くださいますようお願い申し上げます。なお同封いたしましたカタログでご不明な点がございましたら、弊社担当までお問い合わせください。

校正後

さて、このたび下記のとおり新商品を販売いたします。今回の商品は、機能性を重視したものでございます。ぜひ、ご購入をご検討くださいますようお願い申し上げます。  
なお、同封いたしましたカタログでご不明な点がございましたら、弊社担当までお問い合わせください。

ア ㄱ      イ       ウ ㄴ      エ ㄹ  
オ       カ       キ       ク 

- 1 ア・イ・ク
- 2 ア・エ・オ
- 3 イ・カ・キ
- 4 イ・カ・ク
- 5 ウ・エ・キ
- 6 ウ・オ・カ
- 7 ウ・オ・キ
- 8 エ・オ・カ

**9** 「ビジネス情報管理」に関する次の各問に答えよ。

[問 1] クラウドコンピューティングにおけるネットワークの活用方法に関する次の記述**ア～エ**と、用語A～Dとの組合せとして適切なものは、下の**1～4**のうちのどれか。解答番号は **20**。

**ア** 外部の事業者が提供するアプリケーションソフトウェアの機能をネットワーク経由で活用する方法。

**イ** 外部の事業者が提供するソフトウェアの開発や実行のためのプラットフォームをネットワーク経由で活用する方法。

**ウ** 外部の事業者が提供するシステムを稼働させるためのハードウェアの機能をネットワーク経由で活用する方法。

**エ** 外部の事業者が提供するシンクライアントシステムの機能をネットワーク経由で活用する方法。

A S a a S

B D a a S

C I a a S

D P a a S

**1** **ア**－A      **イ**－C      **ウ**－D      **エ**－B

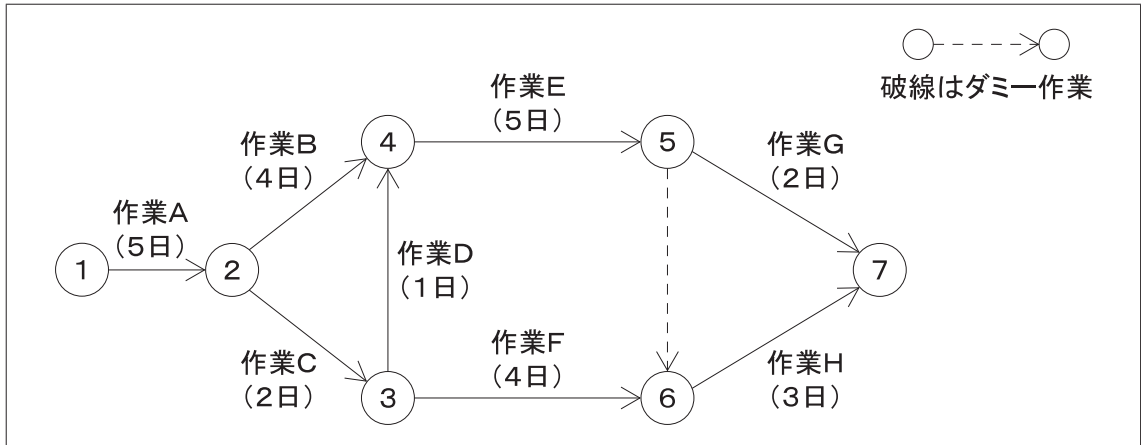
**2** **ア**－A      **イ**－D      **ウ**－C      **エ**－B

**3** **ア**－C      **イ**－A      **ウ**－B      **エ**－D

**4** **ア**－C      **イ**－D      **ウ**－A      **エ**－B

[問 2] 「ビジネス情報管理」のシステム開発の手順の授業において、次に示すPERT図を基にして、生徒に質問したところ、生徒A～Cが下のように解答した。下のア～エは、三人の生徒の解答に至る作業日数の計算方法についての記述である。生徒A～Cの解答と、ア～エとの組合せとして最も適切なものは、下の1～8のうちではどれか。解答番号は 21。

PERT図



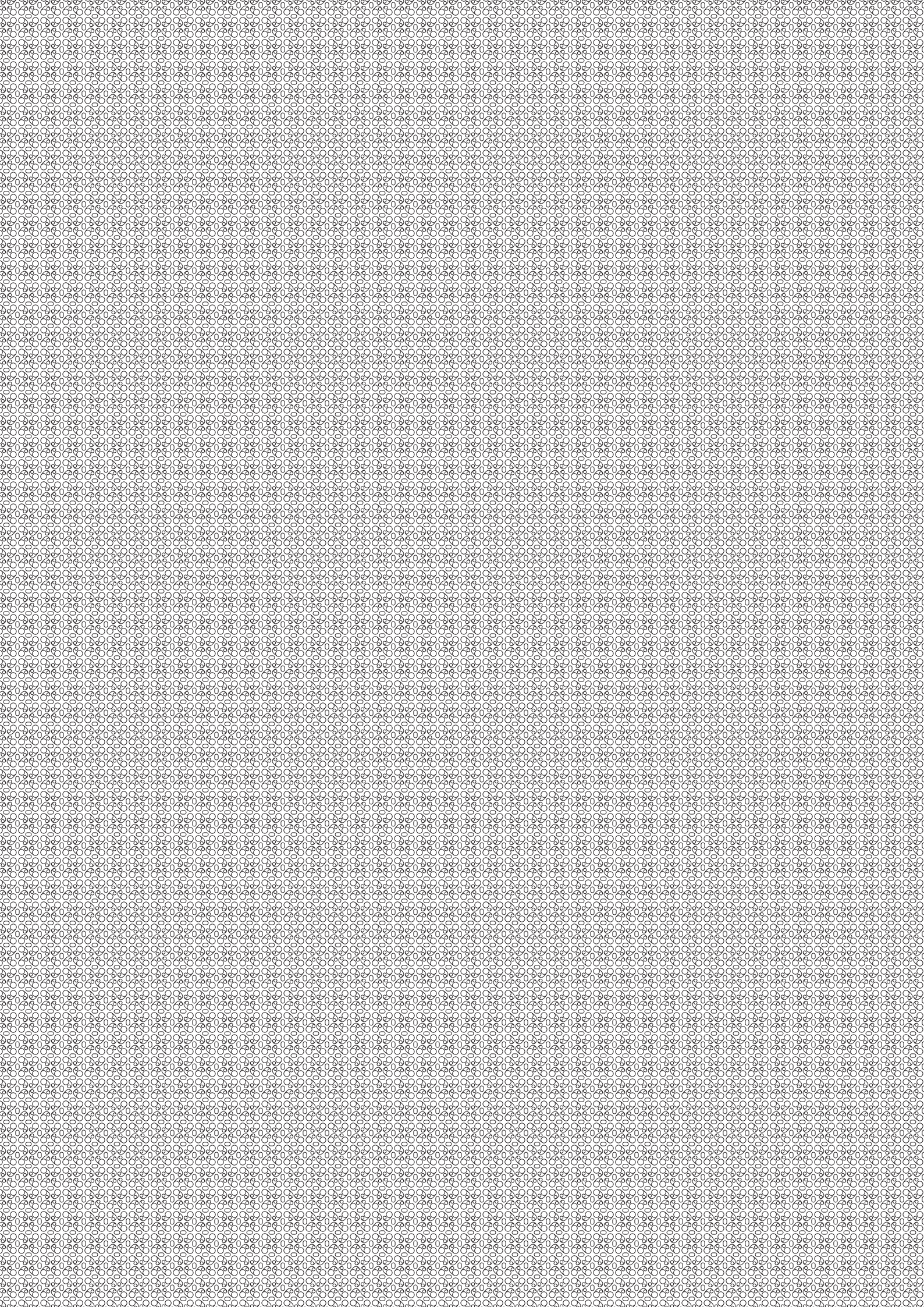
生徒Aは、「クリティカルパスは15日です。」と答えた。

生徒Bは、「クリティカルパスは16日です。」と答えた。

生徒Cは、「クリティカルパスは17日です。」と答えた。

- ア この生徒は、①→②→③→⑥→⑦の経路を計算した。  
 イ この生徒は、①→②→④→⑤→⑥→⑦の経路を計算した。  
 ウ この生徒は、①→②→④→⑤→⑦の経路を計算した。  
 エ この生徒は、①→②→③→④→⑤→⑦の経路を計算した。

- |   |     |     |
|---|-----|-----|
| 1 | A-ア | B-イ |
| 2 | A-イ | C-エ |
| 3 | A-ウ | C-ア |
| 4 | A-エ | B-イ |
| 5 | A-エ | C-イ |
| 6 | B-ア | C-ウ |
| 7 | B-イ | C-ア |
| 8 | B-エ | C-ウ |



3 問題文中の  $\boxed{2}$ 、 $\boxed{34}$  などの  $\square$  には、数字又は符号（-）が入ります。次の(1)~(4)の方法でマークしてください。

(1)  $\boxed{2}$ 、 $\boxed{3}$ 、 $\boxed{4}$ 、……の一つ一つは、それぞれ1~9、0の数字又は符号（-）のいずれか一つに対応します。それらを  $\boxed{2}$ 、 $\boxed{3}$ 、 $\boxed{4}$ 、……で示された解答欄にマークしてください。

例えば、 $\boxed{234}$  に -84 と解答する場合には、次の(例2)のようにマークします。

(例2)

| 解答番号        | 解答欄                   |
|-------------|-----------------------|
| $\boxed{2}$ | ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ● |
| $\boxed{3}$ | ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ● ⑨ ⑩ ⊖ |
| $\boxed{4}$ | ① ② ③ ● ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⊖ |

なお、同一の問題文中に  $\boxed{2}$ 、 $\boxed{34}$  などが2度以上現れる場合、原則として、2度目以降は、 $\boxed{2}$ 、 $\boxed{34}$  のように細字で表記します。

(2) 分数形で解答する場合は、符号は分子に付け、分母に付けてはいけません。また、分数は既約分数で答えてください。

例えば、 $\frac{\boxed{56}}{\boxed{7}}$  に  $-\frac{4}{5}$  と解答する場合には、 $\frac{-4}{5}$  として、次の(例3)のように

マークします。

(例3)

| 解答番号        | 解答欄                   |
|-------------|-----------------------|
| $\boxed{5}$ | ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ● |
| $\boxed{6}$ | ① ② ③ ● ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⊖ |
| $\boxed{7}$ | ① ② ③ ④ ● ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⊖ |

(3) 小数の形で解答する場合は、特に指示されていなければ、指定された桁数の一つ下の桁を四捨五入して答えてください。また、必要に応じて、指定された桁まで⑩にマークしてください。

例えば、 $\boxed{8.910}$  に 2.6 と解答する場合には、2.60 として答えてください。

(4) 根号を含む形で解答する場合は、根号の中に現れる自然数が最小となる形で答えてください。

4 「ただし、選んだ数字の小さい順にマークすること。解答番号は  $\boxed{11}$ 、 $\boxed{12}$ 、 $\boxed{13}$ 。」と表示のある間に対して、 $\mathbf{2}$ と $\mathbf{5}$ と $\mathbf{8}$ と解答する場合には、次の(例4)のように「 $\mathbf{2}$ 、 $\mathbf{5}$ 、 $\mathbf{8}$ 」の順にマークします。

このとき、「 $\mathbf{2}$ 、 $\mathbf{5}$ 、 $\mathbf{8}$ 」以外の「 $\mathbf{5}$ 、 $\mathbf{2}$ 、 $\mathbf{8}$ 」や「 $\mathbf{8}$ 、 $\mathbf{2}$ 、 $\mathbf{5}$ 」などの順にマークした場合には、不正解となります。

(例4)

| 解答番号         | 解答欄                   |
|--------------|-----------------------|
| $\boxed{11}$ | ① ● ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⊖ |
| $\boxed{12}$ | ① ② ③ ④ ● ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⊖ |
| $\boxed{13}$ | ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ● ⑨ ⑩ ⊖ |

## 2 (3採用) 【高等学校 商業】

| 問題番号 |      | 解答番号 | 正答1 | 正答2 | 正答3 | 配点 | 備考 |
|------|------|------|-----|-----|-----|----|----|
| 大問番号 | 小問番号 |      |     |     |     |    |    |
| 1    | 問1   | 1    | 3   |     |     | 3  |    |
|      | 問2   | 2    | 4   |     |     | 2  |    |
| 2    | 問1   | 3    | 2   |     |     | 5  |    |
|      | 問2   | 4    | 2   |     |     | 5  |    |
| 3    | 問    | 5    | 4   |     |     | 5  |    |
| 4    | 問1   | (1)  | 6   | 3   |     | 5  |    |
|      |      | (2)  | 7   | 1   |     | 5  |    |
|      | 問2   | 8    | 2   |     | 5   |    |    |
| 5    | 問1   | 9    | 5   |     |     | 5  |    |
|      | 問2   | 10   | 1   |     |     | 5  |    |
| 6    | 問1   | 11   | 3   |     |     | 5  |    |
|      | 問2   | 12   | 4   |     |     | 5  |    |
|      | 問3   | 13   | 2   |     |     | 5  |    |
|      | 問4   | 14   | 1   |     |     | 5  |    |
| 7    | 問    | 15   | 4   |     |     | 5  |    |
| 8    | 問1   | 16   | 1   |     |     | 5  |    |
|      | 問2   | 17   | 3   |     |     | 5  |    |
|      | 問3   | 18   | 2   |     |     | 5  |    |
|      | 問4   | 19   | 4   |     |     | 5  |    |
| 9    | 問1   | 20   | 2   |     |     | 5  |    |
|      | 問2   | 21   | 5   |     |     | 5  |    |